

彦名通信



COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), YONAGO COLLEGE



新入生代表宣誓



2年生、4年生と企業メンターによるPBL

Index

新年度特集

校長挨拶、入学式の様子	2
年度はじめにあたって、学生相談室のご案内	3
地域に支えられる総合工学科	4

クラス便り

1 学年担任主任から	5
1 年 1 組	5
1 年 2 組	5
1 年 3 組	6

1 年 4 組	6
1 年 5 組	6
3 学年学年主任から	7
3 年機械システムコース	7
3 年電気電子コース	7
3 年情報システムコース	8
3 年化学・バイオコース	8
3 年建築デザインコース	8
留学生、4 年次編入生代表、専攻科 1 年生代表	9

新任教員の紹介	10
キャリア支援室より	11
学生会	12
学生の活躍	13
国際交流支援室より、地域創成テクノセンターより、広報室からのご連絡	14
卒業生は今 (Vol.38)	15
としょぶらり	16

新入生を迎えて

校長 明石 剛 二

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。令和8年度入学식을4月7日に米子コンベンションセンターで挙行し、本科新入生202名、3年次編入留学生1名、4年次編入学生7名、専攻科生産システム工学専攻14名、物質工学専攻5名、建築学専攻5名の新入生を迎えることができました。式では伊木隆司米子市長から祝辞をいただきました。また、石破茂前内閣総理大臣や赤澤亮正経済産業大臣からも祝電を頂戴し、本校学生に対する期待の大きさが伺えました。

皆さんがこれから学んでいく本校は、令和3年4月に時代の変化と技術の急速な進歩に対応すべく、教育内容の高度化を目指して、本科を既設の五学科から一学科・五コース制とした「総合工学科」として再編しております。総合工学科では、課題発見・解決型教育や数理・データサイエンス、リベラルアーツ教育等を通じて、複眼的視野と幅広い知識をもち、自らの専門分野に異分野の知識や技術を融合して、新たな社会的・経済的価値を創出することができる総合力を備えた優秀な人材養成を目的としています。この3月には、総合工学科一期生として卒業生を社会に送り出すことができました。

本科に入学した皆さんは、共通科目（一般科目ならびに専門基礎科目）と専門科目から構成された教育課程表に従い、各科目を受講してもらいます。一般科目は、学んだ技術や知識を社会に還元するためのジェネリックスキルを身につけるために実践的教養教育を意識した科目等で構成されています。専門基礎科目には、2学年後期より希望する専門コースに分かれるレイトスペシャリゼーションを円滑に実施するために、オムニバス形式での各専門分野の紹介や体験ができる科目も1学年に設定されています。また、低学年から複眼的視野を養成するPBL教育として、異なる学年の学生（2学年と4学年）が合同で実施する授業科目もあり、コース配属前の2年生と様々な専門分野の4年生が混成チームを編成し、チームごとに与えられた課題に取り組むことで、多面的な角度から考察ができる能力やコミュニケーション能力を養うことができる科目も準備されていますので、一つひとつの科目を大切に学んでいってください。

当然、授業だけでなく、課外活動、さらには研究活動、国際交流などにも積極的に参加してください。学生の活躍例としては、「アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト」や「全国高専デザインコンペティション」、「全国高専プログラミングコンテスト」などで優秀な成績を収めているほか、多くのスポーツ競技や文化活動などにおいても優秀な成績を収めています。新入生の皆さんも、先輩達の活躍に負けずに大いにいろいろな機会を活用して積極的に課外活動等に取り組んでください。

専攻科入学の皆さんには、さらに高度な専門的知識や技術が学べるカリキュラムを準備しています。豊かな創造力と卓越した研究開発能力を持った実践的開発型技術者として、世界を舞台に持続可能な社会づくりに貢献できる技術者になっていただくことを期待して、カリキュラムが構成されています。専攻科学生の学びの成果としては、国内外の学会において学生自身が遂行してきた研究成果を発表し、優秀な発表に贈られる学会表彰等も受賞しています。2年間という短い期間ですが、しっかりと計画を立てて授業や研究に取り組んでください。

最後に皆さんへ改めてお願いいたします。

高専生は、本科入学生の皆さんを含めて「生徒」ではなく、同じ高等教育機関である大学生と同様に「学生」と呼ばれます。このことは、学生自身が主体的に考え、動ける力を身に付けていることを意味します。そのことを理解して学生生活を過ごしてください。

私も、山口利幸前校長の後任として、本年4月に着任いたしました。皆さんと同じ、米子高専の1年生です。皆さんとともに学び、より良い米子高専を目指して努力してまいりますので、よろしく申し上げます。



校長式辞の様子



入学式の様子

年度はじめにあたって



教務主事 青 砥 正 彦

「米子高専の良いところを10個言えますか？」専門的な学びができること、実験や実習が充実していること、部活動や学校行事が盛んなことなど、本校には多くの魅力が

あります。そして、それらを支えているのは、日々努力を重ねている学生一人一人の存在です。

学校の良さは、建物や設備だけで決まるものではありません。授業に真剣に取り組む姿勢、気持ちのよい挨拶、仲間を思いやる行動など、皆さんの日常の積み重ねが学校の雰囲気をつくっています。

皆さんには、米子高専の一員であることに誇りを持ち、自覚ある行動を大切にしてほしいと思います。そして、自分たちの学校をより良くするために、主体的に行動してほしいと願っています。一人一人の力が、米子高専の未来をつくっているということを忘れないでください。



学生主事 田 中 晋

新年度を迎え、学生便覧の「学生心得」において、自転車利用時のヘルメット着用を「努めること」から「着用すること」へ改めました。本校では自転車事故が後を絶た

ず、頭部を強く打つ事例も発生しています。安全の確保は最優先事項です。これは交通に限らず、学生生活のあらゆる場面に当てはまります。一人ひとりが安全への意識を高めて行動してください。

その上で、様々な活動に積極的に挑戦することを期待しています。高専は3年生で大学受験に追われることなく、課外活動に継続して取り組める環境が整っています。実際に高校総体や技術系コンテストで優れた成果を上げる学生もいます。しかし、一方で全く部活動に参加していない学生も多いようです。是非、自ら活躍の場を求め、多くの経験を積みながら、「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」を築き、自身の成長につなげてください。

学生相談室のご案内

学生相談室長 布 施 圭 司

本校には、学生一人ひとりがよりよい高専生活を送れるようにサポートする学生相談室があります。学校生活や友人関係、勉強や進級の問題、就職・進学など将来について、また、ストレスからくる不眠・体調不良の悩みなど、各種の相談に応じています。本年度は以下のスタッフで業務にあたりますので、よろしくお願いいたします。

学生相談室長	布 施 圭 司	(教養教育部門)
学生相談室員	古清水 大 直	(教養教育部門)・磯 山 美 華(化学・バイオ部門)
看 護 師	上 本 菜々実	(保健室)
インテーカー	山 田 香 子	(学生相談室)
校外カウンセラー	竹 崎 摩 由	(公認心理士：月3回程度・水曜日)
	伊 藤 政 志	(臨床心理師：月4回程度・金曜日)
	福 崎 俊 貴	(鳥大大学院臨床心理学講座：月2回程度・火曜日)
	仲 田 美 紀	(臨床心理師：月2回程度・月曜日)
スクールソーシャルワーカー	廣 江 仁	(養和会 精神保健福祉士)

保護者の皆様におかれましても、「子供の様子がおかしいが尋ねても話してくれない」場合など、相談室への相談をご検討ください。ご来校いただくのが難しい場合は、下記連絡先までお電話やお手紙をいただければ対応いたします。

【宛 先】 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448 米子工業高等専門学校 学生相談室
※返信先のご住所とお名前をご記載ください。

【電話番号】 0859-24-5262 (直通) ※平日 11:15~17:00

総合工学科6年目

総合工学科長 谷 藤 尚 貴

米子高专が1学科5コース制へ移行してから、今年で6年目を迎えました。昨年度は総合工学科の完成年度にあたり、初めての卒業生が社会へと巣立っていきました。当初は、低学年における専門科目の履修時間が減少することへの懸念もありました。しかし、この5年間の新しいカリキュラムを通じて、従来の学科制よりも幅広い分野を学びながら、各専門分野における高い専門性も身に付けた人材を育成できているという実感をえています。また、1・2年次はクラス替えを行い、3年次以降はコース別のクラス編成とする仕組みも、本校の特色の一つです。多くの学生と交流する機会を生み出し、多様な価値観に触れることで、学生の人的成長にもつながっているのではないかと考えています。

総合工学科を開設してからの5年間に社会環境が変わったことは、AIの進化です。簡単な文書作成であれば、数秒で作業が完了します。例として「米子高专総合工学科の特色を500字程度で説明してください」と指示してみたところ、3秒くらいで以下の説明文を生成してくれました。

——米子工業高等専門学校の総合工学科は、社会の変化や技術の進歩に対応できる実践的な技術者を育成する学科です。従来の複数の学科を統合し、「機械システム」「電気電子」「情報システム」「化学・バイオ」「建築デザイン」の5つの専門分野を一つの学科で学べる体制になっています。

1・2年次では、数学や物理、情報基礎などの一般科目に加え、工学基礎実験や実習を通して幅広い工学の基礎を学びます。早い段階で専門を固定しないため、自分の興味や適性を確認しながら進路を考えられることが特徴です。その後、各専門コースに分かれ、より高度な知識や技術を身につけます。

教育では、実験や実習、ものづくりを重視していま

す。プログラミングやロボット製作、設計製図などの実践的な授業を通して、課題解決力や創造力を育成しています。また、AIやIoTなどの先端技術にも対応し、複数分野を組み合わせ活躍できる技術者の育成を目指しています。

さらに、地域企業や自治体と連携した教育活動も行われており、インターンシップなどを通して実社会に近い経験を積むことができます。専門知識だけでなく、協調性やコミュニケーション能力も重視した教育が行われています。——

このように、AIは世の中に公開されている情報を速やかに集約して最適化された文章でまとめてくれます。しかし、人と人の議論などから生み出される新しい着想や熱意を持った意見提案等までは、AIだけで到達することは難しいようです。この文章をもとに「上の文章について若者をターゲットにした文章にしてください、熱意を持った表現にしてください、アメリカンな表現にしてください」等と指示をしても、内容の本質はあまり改善されませんでした(無料サービスで、かつ、入力するプロンプトが悪いのかもしれませんが...)。こうした時代背景を踏まえて、本校ではPBL(課題解決学習)の授業内容を日々改良・進化させているところです。現在、2年生と4年生の約400人が70班に分かれて、6名前後の班で学年・コースの違う学生を混成させて、地元鳥取県の企業・団体の社会人が参加した形式の課題解決ワークを行っています。普段の生活では話すことがなかった相手同士で「自己開示」をして、お互いの未知の能力を見つけて成長する可能性を探ること(ジョハリの窓)や、10代の若者の頭脳に描かれているアイデアは大人の社会には思ったよりも役に立つという経験を、社会人になる前の、この授業を通して味わってもらいたいと考えています。



PBL 授業の様子



企業メンターによる PBL 課題の提示

1年学年主任 川 邊 博

1年全クラスの物理を担当しています。「物理」という新しい科目名に、未知のものへの期待を抱くのか、授業中の新生の目は輝いています。有効数字や運動を表す式の意味が新鮮なようで、もっと学びたい、知りたいという意気込みを強く感じます。おそらく他の科目も同じようで、教室に行くと、毎日課題や小テストの準備に忙しく、日々真剣に取り組む様子を目にします。互いに教え合う姿が自然に生まれ、勉強そのものを楽しんでいるように見える瞬間があります。初めてのことを面白がれる学生は伸びるはずで、この姿勢で学び続ければ最初の1年間だけでも相当なものが身につくことでしょう。社会で活躍している卒業生や優秀な先輩たちもこのように高専の学びを始めていたことを思い返すと、今の新生の姿は、かつての先輩たちがそうであったとおりで、将来の成長を確かに予感させます。まず一年間は目の前にある学びに一生懸命に取り組んでもらえたらと思います。そうやって鍛えられる真剣さが、次の挑戦への道を切り開く武器になります。それこそが高専の学びです。

1年1組

START NEW LIFE

木 崎 翔 嶋

私は正直、期待と不安を抱えて入学しました。高専でどのようなことを学ぶのかははっきりとはわかっておらず、また私は県外から来たので同じ中学出身の知り合いもおらず、友達が作れるか心配でした。しかし積極的に自分から周りの人に話しかけたり、クラスレクリエーションでスポーツやワードウルフなどをするうちに友達ができました。また、入学前に聞いていた通り授業は難しいこともありますが、わからないところを友達同士で教え合っって疑問点をなくすことを意識しながら勉学に励んでいます。今では入学時の不安もなくなり、学校に行きたいという気持ちで胸がいっぱいです。部活動は小学生の頃から習っていたヨットを続けたいと思いヨット部に入りました。学校が終わった後に自転車に乗って練習場所に向かい、勉強と部活動の文武両道で日々頑張っています。これから5年間という長い時間を高専で過ごしますが、何事も一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



修学ガイダンス初日の1-1

1年2組

高専生活第一歩

石 倉 穂 波

中学校を卒業し、私の高専生活が始まりました。就学ガイダンスでは高専のルールや設備の説明がありました。中学校とは校舎の広さ、学習の仕方、専門的な内容など、今までとは全く違う生活が始まりました。そんな新しい生活に対して多くの不安を抱える中で先生方や同好会、部活などの先輩方が優しく、そして温かく迎えてくださったおかげで特に大きなトラブル等はありませんでした。LHRなどを通してクラスの仲間ともすぐに打ち解けることができ、これからの高専生活に期待しながら楽しく過ごしています。クラスでは男女関係なく協力する様子が多々見られ、とても団結力が強いクラスだと思いました。もう少しで前期中間テストや体育祭が始まります。これから大変なこともあるとは思いますが、クラスの皆さんと団結して乗り越えていきたいと思っています。



クラスレク、盛り上がりました！

1年3組

高専の価値

古澤 照一

突然ですが、皆さんはどのようにして高専に登校していますか？私は倉吉に住んでいるのですが、電車で1時間30分かけて登校しています。皆さんの中にもそのような方がいると思います。登校に時間がかかるので中々勉強の時間も取れないのですが、それでも普通の高校には無い、高専特有の要素が魅力的で志望し、現に今大いに刺激を受けて高専を選択して良かったと思っています。私はロボコン同好会に所属しているのですが、他校には無いこの同好会での体験も貴重なもので、実際に機械を作る経験を積むことで将来のためにもすることができると思います。これら高専での貴重な経験は、他の何物にも代えることのできない、人生の宝たり得るものだと思います。これからの数年間、1日1日を大切に、全ての学びに価値を見出してゆこうと思います。



LHRの様子

1年4組

高専に入学して感じたこと

小林 虹太

広い校舎にも慣れ、クラスメイトとも徐々に馴染み始めるうちに、一か月が経ちました。この期間で強く感じたのは、高専は充実した自由な環境であり、それだけに私たちの積極性が試されているということです。

特にそれを感じたのは、部活に入るときでした。入部の手順について担任からの案内がなく、最初は戸惑ってしまいました。そんな時、現代文の辻先生が「分からないことは恥ではない！分からないことは何でも質問！」とおっしゃいました。この言葉にハッとさせられ、顧問に入部の方法を尋ね、手続きを行いました。知らないからと行動をためらっていた自分を反省し、「学生」である以上、質問も情報収集も積極的に行わなくてはいけないと感じました。

充実した環境に身を置いているので、できることに積極的に取り組み、個性豊かなクラスメイトと力を合わせて成長できる一年にしたいです。



集合写真

1年5組

高専入学後に学べたこと

菊川 勝太

米子高専に入学し、早1ヶ月が経ちました。

この1ヶ月で学んだことがあります。それは、人と人とのつながりの大切さです。初日では、クラスにあまり話さないような印象を受けましたが、今では会って1ヶ月とは思えないほどみんなが生き生きと生活しています。そのおかげで、私自身も毎日学校に行くのが楽しみで、とても豊かな学校生活を送れています。また、先輩たちもすごくフレンドリーな人たちばかりですごく助かっています。この人と人とのつながりを大切に、今後も生活していきたいです。

先生も個性的な人ばかりで分かりやすく教えてくださるので、勉強面でも困ることはありません。わからないことがあっても、先生の研究室に行くなどして、より深く教えてもらうこともできます。また、学生同士で教え合う姿も見られて、勉強でもつながりあっていると感じます。

これから先ずっと切磋琢磨しながら、頑張っていきます。



4月9日 曇

3年学年主任 村田 和加恵

3年生は専門科目も増えて、各コースの専門性を深めていく学年だと思いますので、自分の興味のある分野を見つけて、それについて深く勉強してほしいと思っています。

また、3年生は今後の進路を考えていく学年でもあります。特別日課による卒業生による講演や、後期には工場見学旅行や進路研究セミナーが予定されています。これらの行事を通じて、就職の場合は自分がどのような企業に行きたいか、職種はどのようなものがあるのかを考えてみてください。また進学の場合は興味のある分野で大学ではどんな研究がなされているのかなどを調べてみてください。勉学や進路においてわからないことがあれば、先生に遠慮せず相談してください。高専は自由度が高い分、自分の行動に責任が伴います。自律心を育てながら、楽しく充実した1年を過ごしてください。

最後になりますが、1年間よろしく願いいたします。

3M

機械システムコースの印象

畝田 晴矢

こんにちは。3Mの畝田です。私は将来、航空機やロケットといった航空・宇宙産業の設計、開発に関わる仕事に興味があり、4力学や機械設計等の知識を身につけるために機械システムコースを選びました。授業は、2年生と比べて専門教科が増え、機械や機構、材料など様々な分野を学ぶことができます。覚えることやレポートの数も多くなりましたが、どれも奥深さや達成感があります。特に、実験実習では実際に材料を触ったり機械を操作したりするため、ものづくりの面白さを実感できます。クラスの雰囲気は明るく、先生方も親身になって対応してくださるので、分からないことがあってもすぐに相談でき、安心して学べる環境です。仲間同士の交流も多く、毎日楽しく過ごすことができます。これから5年生まで、仲間と成長しながら過ごしていけることが嬉しいです。



実験実習の様子

3E

みんなと過ごす良い時間

松尾 迅将

電気電子コースでは、電気・通信・情報など幅広い分野を学ぶことができ、5つのコースのなかで就職率が一番高くとても良い(E)コースです。3年生になってからは専門の授業が増えて、難易度も上がってきて苦戦することも増えてきました。しかし、クラスみんなが協力しあってわからないところを補っていく姿勢や雰囲気は3Eのとても誇れるところだと思います。6月には3年生初めての前期中間試験がありみんな頑張って勉強しています。また、テストが終わって1週間後には体育祭があります。3Eチーム一丸となって全力で楽しむそんな体育祭にしたいです。そして、なんといっても担任の存在はかせません。とても学生思いで頼れる先生です。これから3年間は共に助け合いながら勉学と遊びの両立を大切にして、充実したとても良い学校生活を送りたいです。



クラス集合写真

3J

3年生になって

尾方利光

私は中学生の時から、情報工学に興味を持っていました。また、中学3年生になり高専ロボコンの全国大会をテレビで見て、奇想天外なアイデアやロボット、大白熱の試合を見て、ロボコンで活動したいと思い高専へ入学しました。米子高専では希望コースへ行くために1年生の成績が必要でしたので、1年生入学以降は情報システムコースへの配属を目標に、日々勉強に励んできました。2年後期から情報システムコースに配属され、本格的にプログラミングや論理回路などの専門科目を学んでいます。情報といえばプログラミングやデジタルという印象が強いですが、実際には電子回路・電気回路・電磁気学などの電気分野も理解しなければいけないということを知りました。これらは1~2年生で学んだ内容と深く関わっており、専門科目への知識を深めるために復習して頑張りたいです。また、インターンやオープンキャンパスに参加して、就職や大学編入への将来の進路を考える時期でもあります。自分が何をしたいのかを決めて、実現に向けて活動をしていきたいです。

3C

化学バイオコースの魅力

中田梁介

3年生となり本格的にCコース学生としての生活が始まって早くも2か月がたちました。私は昔から理科が好きで生物や化学について知見を深めていきたいという思いがあり、この学校に入学しCコースに進んだため、実際に専門的な内容を学べる今の環境にとっても充実感を感じています。

高専生と聞くと、機械を勉強したりロボコンをしたりしているといったイメージを持たれることが多いですが、化学や生物を学べる最高の環境が整っているということをもっと多くの人に知ってもらいたいです。

専門科目は去年と比べるとかなり増えこれからもどんどん多くなっていくのでしっかりと自分の苦手意識を克服して勉強していくことが大切だと感じています。個性的でフレンドリーな人が多いので難しい科目でも個々協力して乗り越えていきたいです。

今年からの3年間をこのクラスで過ごせることに、とてもワクワクしています。



3C 集合写真

3A

文武両道の難しさ

井上航汰

ギリギリ最下位で第一志望の建築コースに滑り込みました、井上航汰です。私は中学のころの成績は良く、1年最初のテストもそこそこ悪くない順位でした。高専にはヨット部という部活があることはご存知でしょうか。週6で、高専から10kmほど離れた境港市まで自転車で通いながら活動しています。そのせいか、テスト1週間前で部活が休みになると、遊んでばかりで勉強が手につきません。高専生なのに理系が苦手で、2年の微積も落としてしまいました。3年になってますます難しくなり、私は“勉強すれば”点数を取れると自負していますが、そんなことを言っている場合ではなくなってきました。得意なことを伸ばせたいと思いますが、そんなことで単位が取れるならテスト前日に徹夜などしません。文武両道とは、並の人間ができることではないです。部活に膨大な熱量を注いでいる以上、勉強に注ぐものなどないのが普通だと思います。正直に言います。助けてください。誰か私の勉強に注ぐ熱量を分けてくれる方を探しています。



3A 集合写真

留学生

日本での勉強について

3E ジャオナイ

タイのラーチャブリー県出身のジャオナイです。入学前はKMITL 高専の電気電子工学科で学んでいました。外国語での勉強は大変なことも多いですが、先生や先輩、友人の支えがあるおかげで、諦めなければどんな困難も乗り越えられると確信しています。

日本への留学を通じて、ものづくりや言語、文化に触れ、美しい景色を旅することができ、本当に良かったです。これからも困難を恐れず全力で努力し、皆さんと共に過ごすこの3年間を実りある楽しい時間にしたと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



東京旅行

4年次編入学生

4C 山口 晴博

私は、東岡山工業高校から編入することになった山口晴博（ハルヒロ）です。高校で吹奏楽部に入り高専に入った今でも続けています。

高専に編入しようと思った理由はより化学の知識を深めたいと思ったからです。高校でもものづくりコンテストの化学分析部門に出場し、そこでより化学について知ってみたい！と思ったのがきっかけです。

最初は出席登録をスマホで行ったり、朝礼がなかったりすることに驚く毎日でしたが、今は少し慣れて仲の良い友人もできてきました。

高専でしっかり勉強して立派な技術者としての基盤を形作っていきたいと思います！



専攻科

専攻科での学び

S1 遠藤 諒 悟（建築学専攻）

私は本科から専攻科へ進学し、より専門的に建築について学んでいます。主体的な学びを心がけ、現在は建築学専攻全員で建築士の資格取得を目指しています。日々の授業や課題、研究と両立させながら支え合い頑張っています。

また、所属している研究室を通して本科生とのつながりもあります。研究と一緒に取り組んだりデザコンのノウハウを継承したりと研究室や高専全体で知識の循環が生まれるよう、後輩との積極的なコミュニケーションを意識しています。

専攻科での新たなスタート

S1 青木 淳之祐（物質工学専攻）

専攻科での生活が始まり、毎日新しい学びに刺激を受けています。授業では本科よりも専門的な内容を学び、これまで学んできた知識をさらに深く理解できるようになりました。また、研究活動を通して、自ら考えて探究する力の大切さを実感しています。これからの2年間、一つ一つの経験を大切にし、仲間たちと切磋琢磨しながら、専門知識と幅広い視野を身につけられるよう努力していきたいです。

学びの幅を広げて

S1 重谷 翼（生産システム工学専攻）

専攻科に進学し、これまで取り組んできた研究を継続できる環境に身を置けたことを嬉しく思います。授業では専門性がさらに高まるだけでなく、他分野の専門についても学ぶ機会が増え、視野の広がりを実感しています。これからの学生生活では、研究に真摯に向き合いながら、仲間との交流も大切にし、充実した2年間を過ごしていきたいと考えています。



令和8年度 専攻科1年

新任教員の紹介

着任のご挨拶

教養教育部門（英語） 金山 陸 貴

今年度より教養教育部門（英語）に着任いたしました金山陸貴と申します。本校の電気情報工学科を卒業し、大学編入、民間企業での勤務を通して音声・音響について学んでおりました。その後、在学時から興味があった英語に惹かれ、現在は大学院にて英語教育学を専攻しております。専門は、これまで培った音の知識を活かしてリスニング活動に関する研究を行っています。学生のみなさんには、私がそうだったように、米子高専を卒業して良かったと思っただけのようにサポートしていきたいと考えております。これからどうぞよろしくお願いいたします。



電気電子部門 金 光

電気電子部門に着任しました、金光と申します。担当授業科目は電子回路設計をはじめ、応用計測工学、制御工学などです。研究では、スマート材料アクチュエータの非線形性補償による制御性能向上に取り組んでいます。米子での生活は初めてですが、自然豊かな環境に魅力を感じています。理論と実践の両立を重視し、学生が主体的に考え、課題解決に取り組む力の育成に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



新任の御挨拶

電気電子部門 田 中 章 浩

4月より電気電子部門に着任した田中章浩です。授業は電気回路やコンピュータ工学などを担当しています。私の出身地は和歌山県です。鳥取大学への入学を機に鳥取県にやって来ました。20年以上鳥取県に住んでいます。米子市に住むのは初めてなので楽しみにしています。専門分野は、マイコン制御・AI・画像解析など幅広く行っています。“世の中の役に立つ物を創り出す”を信条に学生のサポートをしていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。



ご挨拶

教養教育部門（物理） 室 越 琳 生

4月に着任しました、室越琳生（むろこしたまき）と申します。応用物理を担当します。3月までは東北大学の大学院で初期宇宙の研究をしていました。出身は埼玉県で、米子はもちろん、西日本に住むのも初めてです。新しい場所、環境にワクワクしています。高専生のみなさんに物理の面白さを伝えていきたいです。これからどうぞよろしくお願いいたします。



キャリア支援室

キャリア支援室長 宮田 仁志

キャリア支援室は工場見学、就業体験（インターンシップ）、進路研究などの機会を提供し、学生一人ひとりが自分のキャリアについて自律的に考え、選択していけるように、また望ましい職業観、勤労観を持つことができるように支援を行なっています。2024年度以降の就職・採用活動からは一定の条件を満たしたインターンシップで取得した学生情報を企業が採用に活用しても良いことになっており、インターンシップでの学びや取り組みがさらに大切になってきています。キャリア支援室では、インターンシップ参加学生向けのセミナーの案内などについても積極的に行なっています。

米子高専のキャリア支援

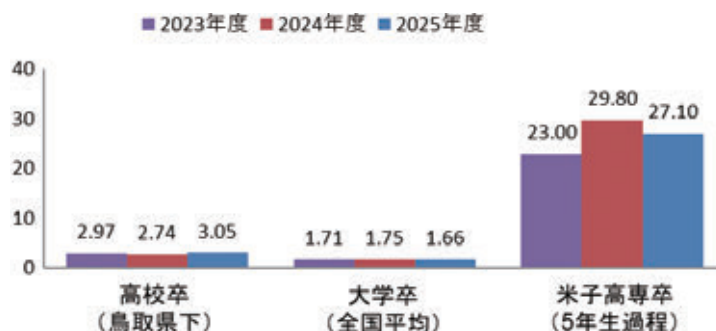
米子高専のキャリア支援は、1年生の地元企業見学、2年生の地域学（米子高専振興協力会企業見学）、3年生の工場見学旅行（県外企業見学）、4年生以上でのインターンシップ（就業体験）や進路研究セミナーの開催、また労働法制及び社会保険制度を学ぶための講演会の実施など、学生の適性や希望に応じた多様な進路選択のため、卒業生や同窓会と連携し、低学年からのキャリア教育を推進するとともに、企業情報、就職・進学情報の提供を含めたキャリア形成に資する体制がとられています。

キャリア支援体制

専攻科2年	進路指導	資格取得支援
専攻科1年	インターンシップ（10日間）	
	共同研究等（特別研究指導）	
本科5年	進路指導、共同研究等（卒研）、講演会など	
本科4年	校外実習（インターンシップ5日間）	
	進路研究セミナー（企業・大学合同説明会）など	
本科3年	工場見学旅行（県外）など	
本科2年	校外研修旅行（地域学：山陰の企業見学）など	
本科1年	地元企業見学など	

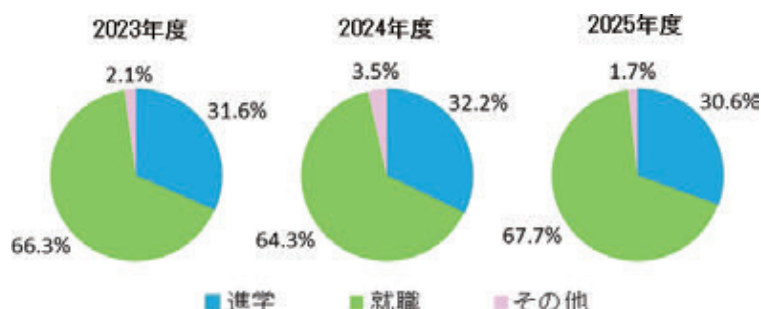
本科求人倍率の推移

求人倍率 27.1 倍と好調を維持しています。



進学・就職の割合（5年生）

2025年度の大学・専攻科の進学率は30.6%でした。



『とっとりインターンシップ』の助成制度について

令和8年度からとっとりインターンシップに参加する全ての学生の県内移動費・宿泊費について、補助額が引き上げられ、上限で9万円まで助成が受けられることになりました。助成を希望する学生は、各自にて申請を行ってください。詳細は、とっとりインターンシップのホームページをご覧ください。

学生会の活動紹介

4A 井上真緒

私たち学生会は、体育祭や文化祭、球技大会などの学校行事の企画・運営をはじめ、学生会費の適切な管理・運用を通して、より良い学校生活の実現を目指し、日々活動しています。

今年度の体育祭は6月開催ということもあり、当日の晴天を願うばかりですが、皆さんに心から楽しんでいただき、最高の思い出となる行事にできるよう、全力で準備を進めています。また、10月には一大イベントである高専祭の開催を予定しています。昨年度の高専祭では、例年にはない新たな試みとして「MVP企画」が実施されました。これにより、各参加団体のモチベーションが向上し、例年以上に熱気あふれる高専祭となりました。今年度もその流れをしっかりと受け継ぎ、さらに盛り上がる高専祭を目指して全力で取り組んでまいります。

今年度の学生会では、学生会長選挙の公約にも掲げた「より過ごしやすい学校づくり」を本格的に進めていきます。その第一歩として、Formsを活用した「オンラインご意見箱」を設置し、学生が気軽に意見を発信できる環境を整えました。現在は学生の皆さんから意見を募集している段階ですが、いただいた大切な声を活かし、「この学校で良かった」と思ってもらえるような学校づくりを目指していきます。

これからも、学生会としてできることに精一杯取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



令和8年度 役員認証式



令和7年度 高専祭ステージ企画の様子



令和7年度 球技大会の様子

学生の活躍

【放送部】 高専機構理事長特別表彰を受けて

4E 放送部部长 上 阪 彩 子

放送部は、「令和7年度国立高専機構学生表彰 理事長特別表彰」を受賞しました。3月に授与式が機構本部八王子オフィスにて開催され、学生表彰の対象となった27件のうち、我々を含め特別表彰となった5件の代表者が出席しました。何れも優秀な方たちばかりで互いの活動について非常に有益な情報交換を行うこともできました。

放送部は第72回NHK杯全国高校放送コンテストでの優勝、全米高校映画祭への日本代表としての出場などが評価されての表彰でした。これらの作品制作では、脚本、撮影、演技、編集などを部員で担当し、それぞれの個性や得意分野を生かしながら、納得のいくまで試行錯誤を重ねています。これからも、作品制作に励んでいきますので、応援とご協力のほどよろしくお願いいたします。



高専機構八王子本部での表彰式

ICIA2026 GLOBAL ROUND で Silver Award を受賞

4E 山本 莉輝、4E 上 阪 彩 子、4M 岡 野 伊 吹

私たちは、2026年4月24～26日にカンボジア・プノンペンにて開催されたICIA2026 GLOBAL ROUNDに出場し、Silver Awardを受賞することができました。この大会は、アメリカ・日本・インドなど26カ国・約130チームから参加した若い発明家たちが、創造性や技術力を競うSTEAMに関するコンペティションです。発表した内容は、2025年大阪・関西万博で本校Eコースがクラゲ館に展示した『五季』という作品に、私たちがVR版を追加してアップデートを行ったものになります。本作品を国内予選（学びの協奏コンテスト）で発表し日本代表に選出されたことで、今大会に参加することが叶いました。

この大会では、慣れない英語でポスター発表を行い、英語で自分の考えを伝えることの難しさと、工夫して伝えることの面白さを知ることができました。また、カンボジア現地のゲームクリエイターの意見を貰うこともでき、今後もこの最高の仲間達と研究を続けていきたいと思いました。



受賞式の様子（2025年大阪・関西万博プロデューサー 中島さち子さんと共に）

Web IoT メイカーズチャレンジ PLUS グランプリ決定戦でグランプリなどを受賞

情報システム部門 准教授 内 田 雅 人

2026年3月15日に実施された2025年度Web IoTメイカーズチャレンジPLUS グランプリ決定戦で、情報システムコース4年生の澤田真優さんと2年生の森風さん（参加当時それぞれ3年生と1年生）が所属するチーム「ペット守り隊」がグランプリと総務省国際戦略局長賞を受賞しました。「ペット守り隊」は災害時に離ればなれになったペットに着目し、ペットの体調の把握、位置を知らせる機能、発見者が飼い主へ連絡を取れる3つの機能を搭載していました。また、5月15日に受賞式として総務省国際戦略局を訪問しました。授賞式後に澤田さんから作品紹介を行い、非常に好評でした。詳細はHPに掲載していますので、ぜひご覧になってください。



総務省での集合写真

JOC ジュニアオリンピックカップ（ユース部門）ILCA6 級で優勝！

ヨット部指導教員 青 砥 正 彦

境港公共マリーナで開催されたJOCジュニアオリンピックカップ（ユース部門）のILCA6級に出場した井上選手が優勝をしました。特に3日目は3レースともトップフィニッシュするなど、安定感が見られました。

井上選手は既に8月にデンマークで開催される世界大会へ日本代表としての出場を決めており、今後の活躍が期待されます。



海上にて

マレーシア研修体験記

5C 奥野 明日香、福住 陽路

今回のマレーシア研修では、パハン大学の学生との交流に加え、Kaneka 工場の見学やマングローブ探索など、多彩な体験を通して多くの学びを得ました。特にプライマリースクール訪問では、伝統遊戯コンカックを子どもたちに教えてもらい、一緒に遊ぶ中で文化の温かさを実感しました。また、夜景に輝くツインタワーや、日本では見られない蛇やイグアナに出会ったマングローブの自然も強く印象に残っています。英語に不安がありましたが、現地の学生が丁寧に寄り添ってくれたことが心に響きました。これらの経験を通して視野が広がり、今後の学びへの意欲が一層高まりました。



パハン大学にて



マングローブ探索

越南探訪記

3E 伊藤 瞭介

私たちは2月23日から27日にベトナムの首都ハノイへ研修旅行に行きました。ハノイ郊外には商工短期大学(COIT)の電気電子学科内に設置されたKOSENモデルコースがあり、そこでの学生とともにPBLに取り組み、英語で意見を交わしながら課題を進める楽しさを実感しました。ユニ・チャーム工場の見学や、世界遺産ハロン湾の雄大な景観の鑑賞、旧市街での市場や寺院、トレインストリートなどの観光も充実していました。文化や生活の違いに驚くこともありましたが、次第にその違いを楽しめるようになりました。COITの学生との交流や、英語が通じない場面で身振り手振りを使って伝える経験は特に印象的でした。今回の研修で得た学びを、今後の学校生活や将来に活かしていきたいです。



PBLの様子



COITの学生と一緒に

地域創生テクノセンター

地域創生テクノセンター長 玉井 孝幸

地域創生テクノセンター(以下、テクノセンター)は、地域の団体、企業と共に産学官の交流や連携活動を通じ、教育・研究活動及び地域貢献の活性化に務めています。テクノセンターの業務は主に教職員向けの、研究費の獲得や、知的財産に関することを担っていますので、直接学生へ対応することは少ない部署です。

しかしながら、間接的には学生の研究や授業、そして就職や地元への転職なども、企業、団体、官公庁と日々打合せをしながら進めています。

その母体となっているのは、240社を超える米子高専振興協会で、会員企業とともに、学生に向けて、ロボコン、プロコン、デザコンをはじめとする各種全国大会参加への補助、「企業ガイドブック」の配布、2年生の科目である「地域学」での企業見学、2年、4年生の「PBL I・II」では企業メンターを集めるなどを行っています。

加えて、令和8年度からは、学生の新規就職の他、Uターンなどの支援・施策を検討するため、キャリア支援室長もテクノセンターのメンバーとして活動しています。

広報室からのご連絡

広報室長 原田 篤

①米子高専公式 SNS

米子高専公式 SNS ではイベント情報や学生の活躍、地域との連携など“米子高専の今”を配信しています。彦名通信では掲載していない情報等もありますので、登録をお願いいたします。

②米子高専 知的セミナー

米子高専の教職員の教育や研究に関わる知的なトピックを紹介する5分の番組です。地上波・中海チャンネル 121 および CATV・332 チャンネル(県民チャンネル)で放送されています。

米子高専知的セミナーの URL https://tottorikenmin-ch.com/archives/movie_type/kosen





中岡 真那人 (なかおか まなと)

2022年3月 電子制御工学科 卒業

2022年4月 三井E&Sシステム技研(株) 入社

■三井E&Sシステム技研ってどんな会社？

1986年に旧・三井造船(現・三井E&S)の情報システム部門から分社独立。ITシステム開発と自社ハードウェア(電子制御機器など)開発の両輪で事業を展開。製造業・流通・金融・公共サービスなどの幅広い業界向けにシステム構築から運用/保守までワンストップで提供しています。

■高専時代

幼い頃からモノづくりに興味を持っており、高専への進学を選択しました。高専での授業は基礎から専門分野まで幅広く学ぶことができ、毎日が新鮮で刺激的な日々の連続だったことを今でも鮮明に覚えています。5年生の卒業研究では組み込み技術をテーマとして活動しました。当時は試行錯誤の連続で壁にぶつかることもありましたが、そこで培った技術や、課題に対して粘り強くアプローチする姿勢が今、私が仕事に携わる上での大きな土台として深く根付いています。

■現在の仕事とやりがい

主に船に搭載されている制御装置の開発、製造に携わっています。

単に製品を作るだけでなく、お客様と直接打合せを行い、必要な機能等の仕様を一緒に検討するところからスタートします。その後、決定した仕様を元にソフトウェアとハードウェアの開発を行い、製造、出荷検査を経て、船への装置搭載や現地調整まで担当します。

仕様検討から実際に船で動くところまで、モノづくりの一連のプロセスに幅広く携わることが出来るのが大きな魅力です。

また、時には自ら乗船して動作確認を行うこともあります。自分が関わった技術が船を支え、実際に動いている姿を目の前で見た瞬間、大きな達成感とやりがいを感じます。自分の仕事が形となり、船舶の安全運航や海上物流を支えていることを実感できる仕事です。

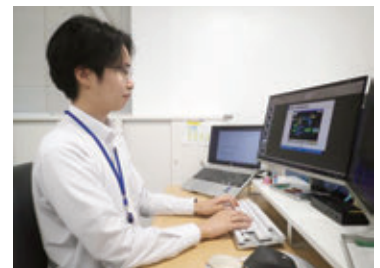
■高専で学んだことがどう仕事に活かされているか

私は5年生の卒業研究で、組み込み技術をテーマに研究を行っていました。現在の仕事では、ソフトウェアを組み込み、船などの大きな“モノ”を動かす仕事に携わっています。自分で開発したソフトウェアによって大きな“モノ”が動くという点は高専時代に取り組んでいたテーマと深くつながっており、当時学んだ組み込み技術や制御の経験が今の仕事に活かされていると実感しています。また、その学びがあったからこそ、入社後も比較的スムーズに業務に馴染むことが出来たと感じています。

一方で、今振り返ると、高専には実践的な学びやモノづくりに挑戦できる環境が数多くあり、もっと幅広い技術や様々な経験に積極的に挑戦しておけばよかったと感じることもあります。可能性を狭めず、興味のあることは貪欲にチャレンジしてください。皆さんの挑戦が、必ず未来の社会を動かす力になります。

■後輩へのメッセージ

在学生の皆さんは、日々、課題や就職活動等に取り組まれ、大変だと感じる人が多いかと思います。ですが、学生時代の苦労や失敗は社会に出てから役に立つ強力な武器になります。実際の仕事でも一回で成功することはほとんどありません。だからこそ学生時代のうちから様々なことにチャレンジし、沢山の失敗を経験してください。高専での勉強や研究で得た知識や経験は、社会に出てから必ず大きな強みになります。米子高専生の今だからこそ挑戦できることに全力で取り組み、悔いのない充実した学生生活を送ってください。心から応援しています！



※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科(機械システムコース)、E…電気情報工学科(電気電子コース)、D…電子制御工学科、J…情報システムコース、C…物質工学科(化学・バイオコース)、A…建築学科(建築デザインコース)、G…教養教育部門、S…専攻科
例えば、「2-1(M)」は2年1組機械システムコースの学生を表しています。

発行：米子高専広報室 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009
ホームページ：https://www.yonago-k.ac.jp/ PDF印刷：勝美印刷株式会社



ISSN 1344 - 5634

米子高専図書館報
第126号

令和8(2026)年6月 発行
米子工業高等専門学校図書館

図書館の業務

図書館では、図書カウンター業務（貸出および返却手続き）のほか、各種統計・調査・照会、図書発注、図書・雑誌の受入および登録、蔵書点検、文献複写依頼受付、卒業研究（学術情報リポジトリ）、電子ジャーナル、研究報告の発行などの業務を行っています。

また、ビブリオバトルやブックハンティングなどの各種イベントも主催しています。

図書館スタッフ紹介（図書館カウンター）

図書館カウンターでの貸出・返却や書架の整理などを担当しているスタッフを紹介します。図書や雑誌を借りたり、本の所在を尋ねたりする際、気軽に声をかけてください。

学術情報係



木 椀 花梨奈

みなさん、こんにちは。図書館司書の木椀です。

新生活で頑張るみなさんにおすすめの本をご紹介します。

『パリのすてきなおじさん』著：金井真紀 出版：柏書房

社会問題と人生のほろ苦さを綴った重たい内容だけれども、クスッと笑えるような元気の出る一冊です。

今年度も引き続き、本の展示・取り寄せ・主に本の相談（レファレンス）を行ないます。編入試験や授業課題で必要な資料の取り寄せも大歓迎です。

福原佳奈

福原です。宜しくお願いします。

図書館には、〇〇解剖図鑑シリーズのコーナーがあります。私は、大相撲が好きで、大相撲解剖図鑑の本で、今まで知らなかった豆知識などを、知る事ができ、益々好きになりました。他にも、神社、歌舞伎など色々あり、イラストも多く読みやすい本なので、おすすめです。

吉田理恵

皆さんこんにちは、昨年より図書館で勤務しています、吉田です。

実は建築学科卒で、建築の仕事の続けながら、母校の図書館で働けるご縁を嬉しく思っています。よろしくお祈りします。

普段はミステリー好きですが、「プロジェクト・ヘイル・メアリー」はSFが苦手な方にもおすすめの、化学と友情とエンタメが詰まった一冊です。

本校の図書館にもありますので、是非手に取ってみてください。

専攻科生

専攻科の学生にもカウンター業務（図書の貸出および返却）や書架整理を手伝ってもらっています。高専のことを良く知っている先輩ですので、気軽に声をかけ、いろいろ相談してみてください。

S 2（物質） 吉岡伊代

S 2（建築） 濱崎大志

S 2（建築） 谷野彼方

S 1（生産） 波田祈莉

S 1（物質） 森 小桜

図書館スタッフ紹介

図書館の運営に当たる教職員です。宜しくお願いします。

図書館長 小川和郎（化学・バイオ部門）

副館長 藤田 剛（機械システム部門）

学生課長補佐 荒木祥子（学術情報係長併任）

図書委員の紹介

今年度の図書委員を紹介します。5月に図書委員会を開催して、委員長、副委員長を選出し、今年度の活動計画について話し合いました。委員長と副委員長の抱負、おすすめの本の紹介などを掲載します。

図書委員一覧

年・組	1	2	3	4	5
1	吉田 彩華	井上 皓雅	池田 朱里	宮階 あおい	森脇 龍臥
2	谷口 友紀乃	上杉 由莉	宮廻 東吾	横山 純夏	岩井 勇歩
年・コース	M	E	J	C	A
3	前田 さくら	田中 笑美莉	森野 恵達	上山 奎自	青戸 望美
4	渡邊 響	西村 謙伸	○恵祖茂 寿歩	◎豊田 彩陽	川島 風太郎
5	山崎 就真	岡 祥太郎	高橋 咲緒里	奥野 明日香	足岡 夢菜

◎：委員長、○副委員長

図書委員長、副委員長の挨拶

図書委員長

去年に引き続き図書委員長になった4Cの豊田彩陽です。

米子高専の図書館は専門書が多いので、ブックハンティングで新たな小説を多く導入しようと思っております。

私が選んだ一冊が、読書への親しみを深められたら幸いです。

よろしくお願いします。

副委員長

4Jの恵祖茂寿歩です。

情報システムコースは5年前に新設されたコースということもあり、図書館には情報系の本がまだ少なく、あっても内容が古いものが多いように感じています。そこで私は、コンパイラ、ハイパーバイザ、OS、型理論、計算理論、機械学習など、情報分野の専門書をもっと充実させたいと考えています。

図書館を訪れた“情報系”を志す中学生や一年生が、「高専に来て良かった」と思えるような本棚を作りたいです。私自身も入学当初、「岩波講座 ソフトウェア科学」が置いてあるのを見て、とても嬉しかったことを覚えています。たとえ最初は読めなくても、「いつか理解したい」という気持ちは勉強の大きな原動力になり、授業を受ける意欲にもつながると思います。

情報分野に興味を持つ学生が、わくわくできる図書館を目指して頑張ります。よろしくお願いします。

トピックス

返却ボックス

返却ボックスを図書館入口付近に移設しました。図書館の閉館日や開館時間外でも返却可能ですので、ぜひ利用してください。

自習スペース

昨年度末のアンケートで、「欲しい本が揃っていない」や「図書館内の自習スペースを広げてほしい」という要望が多くありました。取り急ぎ、新たに自習用の机と椅子を設置しましたので、ぜひ利用してください。また、課題やレポート作成のために必要な本については、各クラスの図書委員に調査を依頼する予定です。



返却ボックス



自習スペース

2025年度 学習意欲、学習・生活環境に関するアンケートの結果(一部抜粋)

あなたは図書館を利用していますか？

頻繁に利用する	82人	16%
時々利用する	246人	47%
ほとんど利用しない	195人	37%

図書館には、あなたが学習するために必要な図書が揃っていますか？

十分揃っている	175人	33%
まあまあ揃っている	329人	63%
少し揃っていないものがある	12人	2%

図書館ではアンケート結果に基づき、利用しやすい環境づくりを目指してまいりますので、みなさんの意見や要望を聞かせてください。(図書館長 小川)